

読書

「昆虫世界」は、ギフ
 チョウ発見者として有名
 な昆虫学者名和靖(一八
 五七―一九二六年)が一
 八九七(明治三十)年に
 創刊した月刊誌である。
 この雑誌は現在でも珍
 しい昆虫研究誌で、専門
 的知識・理解を多
 くの人々に広めることを
 目的としていたためであ
 る。害虫が農作物に深刻
 な被害をもたらす、各地
 で飢饉(ききん)が起こ
 る一方で、対策は神頼み
 といった農業が続いてい
 た時代のことである。

県図書館に行こう

こんな情報

誌でありながら、一般の
 人にも読みやすく分かり
 やすいように、ルビをふ
 り挿絵を入れる工夫がな
 されている。それは、靖
 がただ昆虫を研究するこ
 とだけを目的としたわけ
 ではなく、害虫や益虫に
 ついての知識・理解を多
 くの
 雑誌の内容は、靖が独
 力で創設した「名和昆虫
 研究所」の研究結果の報
 告や講話、各地の昆虫学
 者の論説を掲載するほ
 か、昆虫エッセイのよう
 な雑録や読者からの質問
 に答えるページも設ける
 など充実している。また、

名和靖の「昆虫世界」 人との関係考える資料



「昆虫世界」の表紙

昆虫やその生息環境を描
 いた口絵が詳細で、美し
 い石版画で刷られている
 のが特徴といえる。
 この雑誌の発行は靖の
 死後も続き、一九四六(昭
 和二十一年)まで長く刊
 行された。県図書館では、
 創刊号から一九三九年発
 行の通巻第508号まで
 を所蔵しており、マイク
 ロフィルムで見ることが
 できる。
 名和靖は、本巣郡船久
 木村重里(現瑞穂市)に
 育ち、子どものころから
 虫が大好きで、県農学校
 に学んだ後、教職を経て
 三十九歳のとき岐阜市に
 「名和昆虫研究所」を設
 立、一生を昆虫の研究・
 教育活動に捧げた。
 「名和昆虫研究所」は
 今も受け継がれており、
 同市の岐阜公
 園内にある
 「名和昆虫博
 物館」には国
 内外の昆虫三
 十万点以上の
 標本が展示さ
 れている。身
 近な自然が減
 少する現在、
 この雑誌は再
 び人と昆虫と
 の関係を考え
 る資料の一つ
 となろう。